

平成29年度

# 印西市内遺跡発掘調査報告書

東遺跡	(第5地点)
荒野前遺跡	(第2地点)
大畑遺跡	(第5地点)
中郷遺跡	(第4地点)
道作古墳群	(第2地点)
多々羅田遺跡	
白井谷奥遺跡	
鳴神山遺跡	(第3地点)
鳴神山遺跡	(第4地点)
前戸遺跡	(第4地点)
迎山遺跡	(第2地点)

2019

印西市教育委員会



## 例 言

1. 本書は、平成29年度国庫補助金を受けて実施した、東遺跡（第5地点）、荒野前遺跡（第2地点）、大畑遺跡（第5地点）、中郷遺跡（第4地点）、道作古墳群（第2地点）、多々羅田遺跡、白井谷奥遺跡、鳴神山遺跡（第3・4地点）、前戸遺跡（第4地点）、迎山遺跡（第2地点）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は印西市教育委員会が平成29年度に実施し、整理作業と原稿執筆は印西市より委託を受けた公益財団法人印旛都市文化財センターが平成30年度に実施した。
3. 調査組織は以下の通りである。

### ●発掘調査（平成29年度）

調査主体者	大木 弘	印西市教育委員会教育長
調査事務	飯島 伸一	印西市教育委員会生涯学習課長
	北林 泰子	印西市教育委員会生涯学習課文化班主査
	根本 岳史	印西市教育委員会生涯学習課文化班主任学芸員

### ●整理作業・原稿執筆（平成30年度）

調査主体者	大木 弘	印西市教育委員会教育長
調査事務	飯島 伸一	印西市教育委員会生涯学習課長
	坂巻 暁子	印西市教育委員会生涯学習課文化係長
	野口枝美子	印西市教育委員会生涯学習課文化係学芸員
調査受託者	茅野 達也	公益財団法人印旛都市文化財センター代表理事
整理担当者	石川 愛恵	公益財団法人印旛都市文化財センター調査研究員

4. 発掘調査は平成29年度に実施した。以下、（1）所在地（2）調査の種別、調査面積、調査期間（3）調査担当者（4）調査に至る経緯について概要を記す。

### 東遺跡（第5地点）（コード番号09-120）

- （1）印西市平岡字東1152番4、1152番5（2）確認調査、上層78㎡/752㎡、平成29年4月18日
- （3）根本岳史（4）社会福祉施設の建設に先立って文化財保護法第93条が提出された。それにより、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、本調査の必要性を判断するために確認調査を実施した。

### 荒野前遺跡（第2地点）（コード番号09-121）

- （1）印西市鎌刈字荒野前2003番4（2）確認調査、上層103㎡/372㎡、平成29年5月9日（3）根本岳史
- （4）個人住宅の建設に先立って文化財保護法第93条が提出された。それにより、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、本調査の必要性を判断するために確認調査を実施した。

### 大畑遺跡（第5地点）（コード番号09-122）

- （1）印西市大森字森内1970番1（2）確認調査、上層39㎡/319㎡、平成29年7月6日（3）根本岳史
- （4）個人住宅の建設に先立って文化財保護法第93条が提出された。それにより、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、本調査の必要性を判断するために確認調査を実施した。

### 中郷遺跡（第4地点）（コード番号09-123）

- （1）印西市松崎字中郷492、496、497、506番2の一部（2）確認調査、上層166㎡/2112.05㎡、平成29年8月21日～24日（3）根本岳史（4）認可外保育所の建設に先立って文化財保護法第93条が提出された。それにより、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、本調査の必要性を判断するために確認調査

を実施した。

#### 道作古墳群（第2地点）（コード番号09-124）

（1）印西市平岡字栗山谷1676番1、小林字六ヶ村2892番4の各一部（2）確認調査、上層39㎡/26412㎡、平成29年11月9日（3）根本岳史（4）農業用倉庫の建築に先立って文化財保護法第93条が提出された。それにより、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、本調査の必要性を判断するために確認調査を実施した。

#### 多々羅田遺跡（コード番号09-125）

（1）印西市船尾字割地1467番1の一部（2）確認調査、上層56.5㎡/350.71㎡、平成29年12月6日（3）根本岳史（4）個人住宅の建設に先立って文化財保護法第93条が提出された。それにより、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、本調査の必要性を判断するために確認調査を実施した。

#### 白井谷奥遺跡（コード番号09-126）

（1）印西市戸神字宮ノ越1070番1（2）確認調査、上層42.5㎡/341㎡、平成29年12月13日（3）根本岳史（4）個人住宅の建設に先立って文化財保護法第93条が提出された。それにより、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、本調査の必要性を判断するために確認調査を実施した。

#### 鳴神山遺跡（第3地点）（コード番号09-127）

（1）印西市戸神字天王629番2、631番14（2）確認調査、上層43.5㎡/330㎡、平成30年1月15日（3）根本岳史（4）個人住宅の建設に先立って文化財保護法第93条が提出された。それにより、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、本調査の必要性を判断するために確認調査を実施した。

#### 鳴神山遺跡（第4地点）（コード番号09-128）

（1）印西市戸神字北ノ内1045番3（2）確認調査、上層41㎡/375㎡、平成30年1月31日（3）根本岳史（4）個人住宅の建設に先立って文化財保護法第93条が提出された。それにより、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、本調査の必要性を判断するために確認調査を実施した。

#### 前戸遺跡（第4地点）（コード番号09-129）

（1）印西市松崎字前戸866番2、869番、878番、879番1、879番2（2）確認調査、上層25㎡/180㎡、平成30年2月8日（3）根本岳史（4）個人住宅の建設に先立って文化財保護法第93条が提出された。それにより、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、本調査の必要性を判断するために確認調査を実施した。






#### 遼山遺跡（第2地点）（コード番号09-130）

（1）印西市大森字遼山（2）確認調査、上層648㎡/5065.02㎡、平成30年2月13日～28日（3）根本岳史（4）太陽光発電施設の敷設に先立って文化財保護法第93条が提出された。それにより、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、本調査の必要性を判断するために確認調査を実施した。

5. 整理作業、報告書原稿作成ならびに印刷製本は、平成30年度国庫補助・県費補助費事業として実施した。
6. 本書は、公益財団法人印旛郡市文化財センター調査研究員石川愛恵が執筆し、印西市教育委員会生涯学習課野口枝美子と石川が編集を行った。また、縄文土器については、同センター調査課長中山俊之、庶務課長兼調査課主幹喜多裕明の、弥生土器については調査課主任調査研究員根本岳史の、須恵器・土師器については調査課嘱託調査研究員宮内勝巳の協力を得た。
7. 本書で使用した写真は、遺構は調査担当者、遺物は杉原豊氏（有限会社スギハラ）が撮影した。
8. 調査・整理図面、写真、出土遺物は印西市教育委員会が保管している。
9. 発掘調査から報告書刊行まで、下記の機関のご指導、ご教示を賜った。（敬称略・順不同）  
文化庁、千葉県教育庁生涯学習部文化財課

## 凡 例

1. トレンチ番号等は発掘調査時のものを使用している。
2. 第1～3図は国土地理院発行の地形図（1/50,000）「佐倉」を、各遺跡の位置図は印西市発行の都市計画基本図（1/2,500）を使用している。
3. 第1表は千葉県教育委員会発行の「千葉県埋蔵文化財分布地図（1）—東葛飾・印旛地区（改訂版）—」を引用している。
4. 挿図中の縮尺は以下を原則としているが、詳細は個々にスケールを参照されたい。  
トレンチ配置図 1/200、1/300、1/400、1/500、1/600  
縄文・弥生土器 1/3 須恵器・土師器・石製品・鉄製品 1/4 土製品 1/2
5. トレンチ配置図及び遺物実測図のスクリーン・トーン及びドットの用例は次のとおりである。

	縄文時代土坑		古墳時代竪穴住居跡	●土器
	古墳時代土坑、溝状遺構		奈良・平安時代竪穴住居跡、土坑	
	中近世土坑、溝状遺構		擾乱、埋没谷	
	保存範囲（協議範囲）		赤彩	

6. 遺物実測図の土器断面の黒塗りには、須恵器を示す。
7. 遺物写真は、東遺跡（第5地点）、荒野前遺跡（第2地点）、大畑遺跡（第5地点）、迎山遺跡（第2地点）の1～42を1/3で、その他を1/4で掲載している。
8. 方位は磁北を示している。
9. 本文中及び遺物観察表数値は〈 〉が現存値、（ ）が推定値を示す。

# 本文目次

第1章	周辺の遺跡	1
第2章	東遺跡（第5地点）	3
第3章	荒野前遺跡（第2地点）	4
第4章	大畑遺跡（第5地点）	5
第5章	中郷遺跡（第4地点）	6
第6章	道作古墳群（第2地点）	8
第7章	多々羅田遺跡	8
第8章	白井谷奥遺跡	9
第9章	鳴神山遺跡（第3地点）	10
第10章	鳴神山遺跡（第4地点）	11
第11章	前戸遺跡（第4地点）	11
第12章	迎山遺跡（第2地点）	12
第13章	まとめ	19

# 挿図目次

第1図	周辺の遺跡（1）	1	第15図	トレンチ配置図及び出土遺物	9
第2図	周辺の遺跡（2）	2	第16図	白井谷奥遺跡位置図	9
第3図	周辺の遺跡（3）	2	第17図	トレンチ配置図及び出土遺物	10
第4図	東遺跡（第5地点）位置図	3	第18図	鳴神山遺跡（第3・4地点）位置図	10
第5図	トレンチ配置図及び出土遺物	4	第19図	トレンチ配置図及び出土遺物	11
第6図	荒野前遺跡（第2地点）位置図	4	第20図	トレンチ配置図及び出土遺物	11
第7図	トレンチ配置図及び出土遺物	5	第21図	前戸遺跡（第5地点）位置図	12
第8図	大畑遺跡（第5地点）位置図	5	第22図	トレンチ配置図	12
第9図	トレンチ配置図及び出土遺物	6	第23図	迎山遺跡（第2地点）位置図	12
第10図	中郷遺跡（第4地点）位置図	6	第24図	トレンチ配置図	13
第11図	トレンチ配置図及び出土遺物	7	第25図	出土遺物（1）	14
第12図	道作古墳群（第2地点）位置図	8	第26図	出土遺物（2）	15
第13図	トレンチ配置図	8	第27図	出土遺物（3）	16
第14図	多々羅田遺跡位置図	8			

# 表目次

第1表	遺跡地名表	2	第2表	迎山遺跡（第2地点）遺物観察表	16
-----	-------	---	-----	-----------------	----

## 第1章 周辺の遺跡（第1～3図）

千葉県印西市は、千葉県北部を中心に広がる広大な下総台地の北端部に位置する。下総台地は標高20～30mの低平な洪積台地であり、北部に向かって傾斜し、利根川・印旛沼方向に流入する河川及び東京湾に向かって流れる無数の小河川によって、樹枝状に開析された複雑な地形をその特徴とする。

市域北部の平岡・小林地区では東遺跡（1）、道作古墳群（5）を調査した。周辺には印西市内では数少ない古墳が比較的多く築造されている。台地の東側縁部に所在した鶴塚古墳（11）はこれまでに調査された印西市内の古墳の中では最も古く、4世紀末～5世紀初頭に比定される直径44mの大型円墳である。現在は消滅しているが、墳丘中段のテラス状部分から器形埴輪と壺型埴輪が見つかったことで注目された。小林古墳群（12）は6世紀前半～後半に築造された4基の古墳からなり、1号墳では形象埴輪が出土している。大森・鹿黒地区では大畑遺跡（3）、迎山遺跡（10）を調査した。両遺跡の東側には縄文時代～奈良・平安時代の各時代の大規模な集落跡を包蔵する、印西市内で最も広範囲かつ時間軸も長い複合遺跡である天神台遺跡（13）が所在する。その天神台遺跡の南側には古代寺院跡の木下別所庵寺跡（14）が隣接し、北西側には同寺院の瓦の生産だけでなく製鉄も行った曾谷ノ窪瓦窯跡（15）、精錬鍛冶の鉄素材から鍛錬鍛冶を行って農具等を生産し、天神台遺跡の該期の集落へ供給していたと想定される曾谷窪遺跡（16）といった生産遺跡も集中する。



第1図 周辺の遺跡（1）

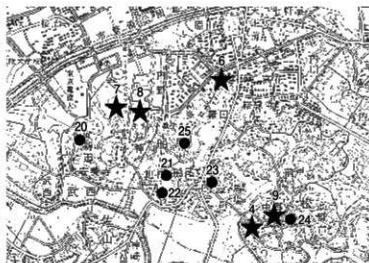
市域東部の旧印旛村・本整村地域にあたる鎌苅地区では荒野前遺跡（2）を調査した。この周辺は利根川と印旛沼に注ぐ支流の分水嶺にあたり、多方向から入り組んだ谷津によって複雑な地形を呈している。遺跡の西側には槍先形尖頭器を含む石器集中箇所1カ所と縄文時代陥し穴1基が検出し、縄文時代早期の土器・中期の加曾利E式土器などが出土した荒ヶ遺跡（17）、荒野前遺跡と同じくATの上下の層位から石器群を検出したほか、縄文時代早期の竈穴20基と弥生時代～奈良・平安時代の住居跡19軒を検出した式ト込遺跡（18）がある。角田台遺跡（19）は環状石器群を含む23カ所の石器集中箇所から有樋尖頭器や特異な彫器、被熱した多量の礫が出土し、縄文時代早期～前期の堅穴住居跡4軒が検出されている。旧石器時代～縄文時代においては、この一帯は小規模な集落が点在し、狩猟・採集の地として利用されていた様子が窺える。

市域南西部の松崎・船尾・戸神地区では中郷遺跡（4）、多々羅田遺跡（6）、白井谷奥遺跡（7）、鳴神山遺跡（8）、前戸遺跡（9）を調査した。昭和40年代中頃から千葉ニュータウンとして大規模な宅地開発や関連する市街化整備とそれに伴う発掘調査が行われてきた地域であり、広範囲に及ぶ数々の成果は、古代の印旛郡船橋郷の具体的な実態を明らかにしつつある。白井谷奥遺跡と鳴神山遺跡は間に浅い谷があるものの、その谷を越えて両遺跡を東西に貫く直線道路状遺構が検出されている。同時期に密接な繋がりをもつて

展開した集落遺跡であることは明らかであり、基本的には平坦で広い台地上に存在した同一の遺跡として認識されている。周辺には向新田遺跡 (20)、船尾町田遺跡 (21)、向ノ地遺跡 (22)、油免遺跡 (23)、前戸遺跡から集落跡が続く東海道遺跡 (24) など、古墳時代、奈良・平安時代を主体とする遺跡が多数所在し、谷津を挟んだ東側に位置する船尾白幡遺跡 (25) とともに古代における印旛郡船越郷の中核地として発展していたと考えられる。



第2図 周辺の遺跡 (2)



第3図 周辺の遺跡 (3)

第1表 遺跡地名表

No.	遺跡名	所在地 (印西市)	種類	時代 (時期) 等	遺構/遺物等	立地/状況
1	東遺跡	平岡字西谷津	包蔵地	旧石器、平安、中世	地下式横穴、土坑/ポイント/土師器、ホウラク	台地上/畑、荒地
2	鬼野前遺跡	鬼崎鬼野前 (旧日勝村・本誓村)	包蔵地	旧石器、縄文 (後)、弥生 (後)	石器製作跡、陥穴/脚竈、石刀、石杖、ナイフ形石器、磁石、縄文土器、弥生土器	台地上/畑、荒地、山林、道路
3	大畑遺跡	大森字大畑	包蔵地	縄文 (中・後)、古墳 (後)、奈良・平安	住居跡・縄文土器 (加賀利瓦・聚之内・加賀利瓦)、土師器 ※遺跡消滅	台地上/畑
4	中郷遺跡	松崎字中郷	包蔵地	縄文 (早・前・中)、古墳 (後)、奈良		台地上/畑
5	道作古墳群	小林字馬場	古墳	古墳	前方後円墳 5 基、円墳 9 基 (10~18m)、方墳 1 基 (18m) ※円墳 2 基消滅	台地上/山林
6	多々原田遺跡	多々原田字菅天南	生家跡	弥生	跡津	台地斜面/荒地
7	白草谷津遺跡	白草字北ノ内	包蔵地	奈良・平安、中近世	住居跡、地下式坑、土坑/土師器、須恵器	台地上
8	鳴神山遺跡	白草字大野	包蔵地、集落跡	旧石器、奈良・平安	住居跡、土器壺、竈立柱建物跡/土師器、須恵器、灰皿、鉢鉢	台地上
9	借戸遺跡	松崎字借戸	包蔵地	縄文 (中)、平安	縄文土器 (加賀利瓦)、土師器	台地上/畑
10	湖山遺跡	大森字湖山	包蔵地	古墳 (後)	土師器	台地上/畑
11	稲塚古墳	小林字稲	古墳、集落跡	弥生、古墳	住居跡、円墳 (44m)、合口密棺/埴輪、銅、直刀、鏃、刀子、鉄鏃、ガラス玉、磁石、磨石製小玉 ※遺跡消滅	台地上/宅地
12	小林古墳群	小林字城山	古墳	古墳	円墳、方墳、住居跡 ※遺跡消滅	台地上/宅地
13	天神台遺跡	大森字内	貝塚、集落跡	縄文、弥生、古墳、奈良・平安	地点貝塚、住居跡/縄文土器 (田ノ加賀利瓦・聚之内・加賀利瓦・安行)、弥生土器、土師器、須恵器、鉄器、銅製品、土師	台地上/畑、荒地
14	木下別所庵寺跡	別所字石神台	寺院跡	桃徳、奈良・平安	古瓦、基壇	台地上/畑
15	菅谷ノ窪瓦窯跡	大森字菅谷窪	窯跡	奈良	瓦窯跡、炭窯跡/古瓦、須恵器	台地斜面/山林
16	菅谷津遺跡	大森字菅谷窪	包蔵地	奈良・平安	※一部消滅	台地上
17	葉ヶ池跡	奥田字葉ヶ池 (旧本誓村)	包蔵地	旧石器、縄文	陥穴・縄文土器 (横瀬土器)、ナイフ形石器、銅片	台地上/畑、山林、道路
18	式ト込遺跡	奥田字式ト込 (旧本誓村)	包蔵地、集落跡	旧石器、縄文 (前・中) 弥生、古墳、奈良・平安	竈穴、竈立柱建物跡/縄文土器 (横瀬土器・加賀利瓦)、弥生土器、土師器、石刀、須恵器	台地上/畑、山林、道路
19	角田台遺跡	角田字御所 (旧本誓村)	包蔵地、集落跡	旧石器、縄文 (早・前)、奈良・平安、中近世	住居跡、中鉢、土坑、竈/ナイフ形石器、磨製石斧、石刀、刮器、縄文土器 (赤根文・漆織)、弥生土器、土師器、須恵器	台地上/原野、山林
20	向新田遺跡	武西字向新田	集落跡、牧跡	縄文 (前)、弥生 (後)、古墳、平安、近世	住居跡、野馬塚/縄文土器 (黒土)、土師器、須恵器、古銭	台地上/畑、道路、荒地
21	船尾町田遺跡	船尾字町田	集落跡、古墳	縄文 (中・後)、弥生 (後)、古墳 (前・中)	住居跡、前方後円墳、円墳/縄文土器 (加賀利瓦・赤名寺)、弥生土器 (前期型)、土師器	台地上/宅地
22	向ノ地遺跡	船尾字向ノ地	集落跡、塚	旧石器、弥生、古墳、奈良・平安、中近世	円形塚、住居跡/石器、弥生土器、土師器、陶磁器、人骨	台地上/墓地
23	油免遺跡	船尾字油免	包蔵地	奈良	土師器	台地上/畑
24	東海道遺跡	松崎字東海道	包蔵地	平安	土師器	台地上/畑
25	船尾白幡遺跡	船尾字白幡	包蔵地、集落跡	旧石器、縄文 (早・前・後)、弥生 (後)、古墳 (後)、平安	住居跡、土坑/瀬石器、ナイフ形石器、縄文土器 (井草・田ノ下形)、茅山・浮島・舞津・加賀利瓦)、弥生土器 (弥生形)、土師器	台地上/造成地

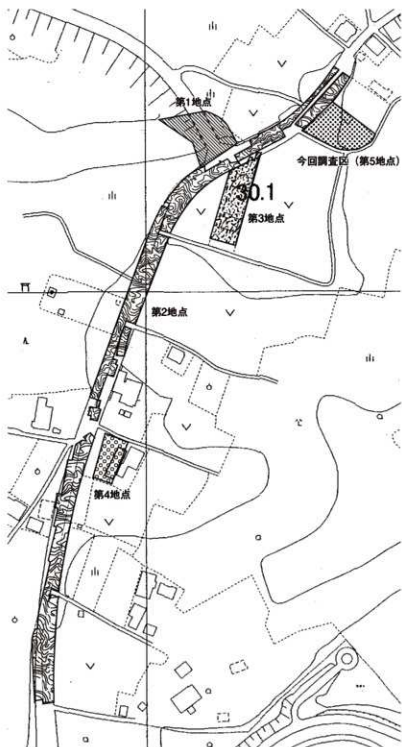


## 第2章 東遺跡（第5地点）（第4・5図 図版1・8）

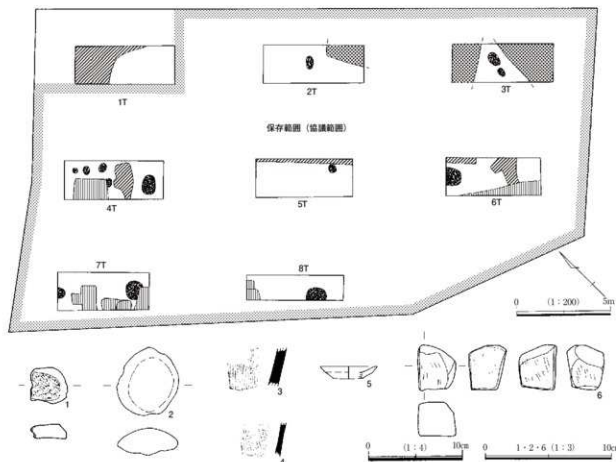
1. 遺跡の位置（第4図） 利根川・将監川の南岸1km、標高30mの台地上に位置する。現況は畑地である。

2. 調査の方法 調査区域内に2m×5mを基準としたトレンチを8カ所設定し、表土除去後遺構確認を実施した。

3. 遺構と遺物（第5図 図版1・8） 遺構は古墳時代竪穴住居跡3軒、奈良・平安時代土坑13基、中近世土坑7基・溝状遺構1条を検出した。溝は6トレンチで部分的に検出しており、第2地点の3号溝の延長にあたると思われる。主な出土遺物は古墳時代土師器、奈良・平安時代土師器・須恵器、中近世陶磁器である。そのうち6点を図示した。1は1トレンチから出土した土鏝で、重量10.1gを量る。2は磨石で、長さ(5.3cm)、幅(4.8cm)、厚さ(2.1cm)、重量(54.4g)を測る。3は4トレンチから出土した須恵器甕の胴部である。奈良・平安時代の鳩山窯産で、外面に平行タタキがみられる。胎土に長石、石英、白色針状物を少量含み、色調は灰色を呈する。4は同じく須恵器甕の胴部で、外面平行タタキ、胎土に長石を少量含み、色調は灰褐色を呈する。5は近世のカワラケで、残存率が口縁部～底部1/5、口径(6.0cm)、底辺(3.2cm)、器高1.3cmを測る。口口整形され、体部下端外面はナデによって調整される。胎土に長石を多く含み、色調はにぶい黄褐色を呈する。6は1トレンチから出土した砥石で、長さ3.6cm、幅3.0cm、厚さ2.7cm、重量38.6gを測り、4面に使用痕がみられる。



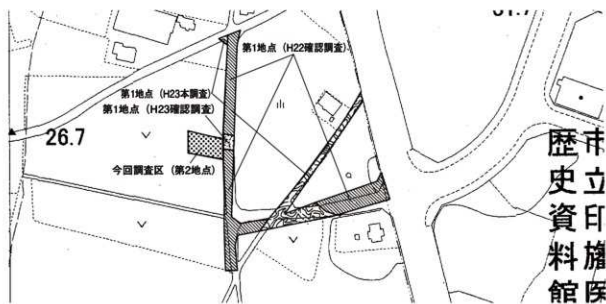
第4図 東遺跡（第5地点）位置図



第5図 トレンチ配置図及び出土遺物

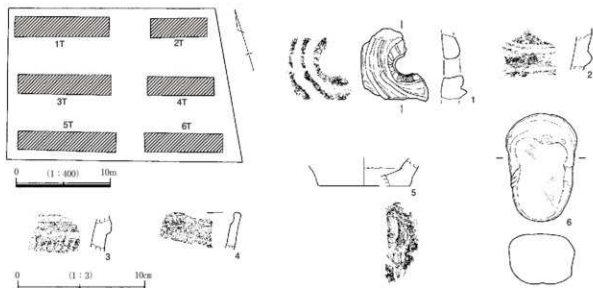
### 第3章 荒野前遺跡（第2地点）（第6・7図 図版1・8）

1. 遺跡の位置（第6図） 西印旛沼の北岸1.7km、標高28mの台地上に位置する。現況は荒蕪地である。
2. 調査の方法 調査区域内に2m×5～10mのトレンチを6カ所設定し、表土除去後遺構確認を実施した。



第6図 荒野前遺跡（第2地点）位置図

3. 遺構と遺物 (第7図 図版1・8) 攪乱が著しく、遺構は検出されなかった。遺物は縄文土器が数点出土している。1～3は阿玉台Ⅲ式の深鉢である。1は環状の把手片で、半截竹管による沈線が2条施され、透かしの周辺には刻み目を有する。2は胴部片で、貼り付け隆帯の上部に2条、下部に1条の沈線に沿わせる。3は胴部片で、貼り付け隆帯以下に単節RL縄文が施される。4は加曾利B式(粗製)の深鉢の口縁部片で、単節LR縄文が施される。5は土器型式不明だが縄文土器の深鉢で、残存率は底部1/4、底径(7.2cm)、器高(2.2cm)を測る。体部から底部外面ヘラナダ、内面ナダ。6は磨石で、最大長8.4cm、幅5.6cm、厚さ3.9cm、重量262.2gを測る。



第7図 トレンチ配置図及び出土遺物

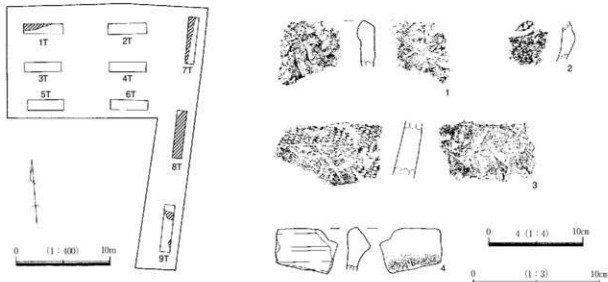
#### 第4章 大畑遺跡 (第5地点) (第8・9図 図版1・2・8)

1. 遺跡の位置 (第8図) 手賀沼の東岸2km、亀成川の北岸0.4km、標高23mの台地上に位置する。現況は荒蕪地である。
2. 調査の方法 調査区域内に1m×5mを基準としたトレンチを9カ所設定し、表土除去後遺構確認を実施した。



第8図 大畑遺跡 (第5地点) 位置図

3. 遺構と遺物 (第9図 図版1・2・8) 調査区内全域にわたってトレンチャーによる格子目状の攪乱が著しく、遺構は検出されなかった。遺物は縄文土器、奈良・平安時代土師器、中世陶磁器が数点出土したが、小片のため図示しえない。図示した縄文土器についても耕作等の影響により摩滅、損傷が激しく、器面の文様は不明瞭である。1～3は1トレンチから出土した加曾利E式の深鉢である。1は口縁部片で、逆U字状の沈線が施される。2はU字状の沈線区画内外に単節RL縄文が施される。3は単節RL縄文が施される。4は深鉢の口縁部片である。



第9図 トレンチ配置図及び出土遺物

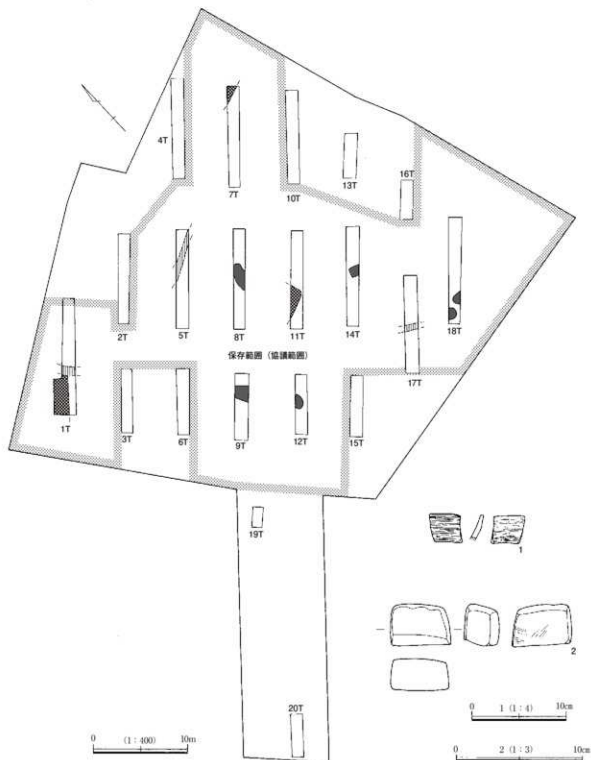
## 第5章 中郷遺跡 (第4地点) (第10・11図 図版2・3・8)

1. 遺跡の位置 (第10図) 新川の北岸0.7km、標高23mの台地上に位置する。現況は荒蕪地である。



第10図 中郷遺跡 (第4地点) 位置図

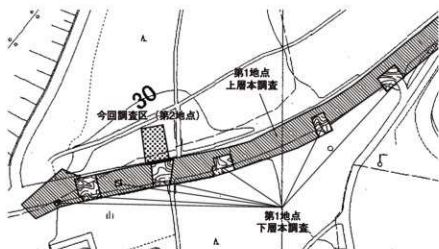
2. 調査の方法 調査区域内に1m×2~11mのトレンチを20カ所設定し、表土除去後遺構確認を実施した。
3. 遺構と遺物(第11図 図版2・3・8) 遺構は古墳時代竪穴住居跡3軒、土坑6基、中近世溝状遺構2条を検出した。1トレンチで検出した溝が17トレンチまで続いているものと思われる。遺物は11トレンチから出土した2点を図示した。1は中世以降の土師器環の口縁部片である。内外面ミガキ、胎土には小石少量を含み、色調はふい黄褐色を呈する。2は砥石で4面に使用痕がみられる。最大長4.3cm、幅3.3cm、厚さ2.5cm、重量59.4gを測る。他に古墳時代土師器が数点出土したが、小片のため図示しない。



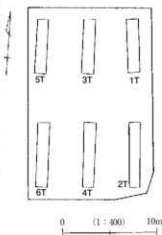
第11図 トレンチ配置図及び出土遺物

## 第6章 道作古墳群（第2地点）（第12・13図 図版3）

1. 遺跡の位置（第12図） 将監川の南岸1.7km、標高30mの台地上に位置する。現況は荒蕪地である。
2. 調査の方法 調査区域内1m×6～7mのトレンチを6カ所設定し、表土除去後遺構確認を実施した。
3. 遺構と遺物（第13図 図版3） 遺構及び遺物は検出されなかった。



第12図 道作古墳群（第2地点）位置図



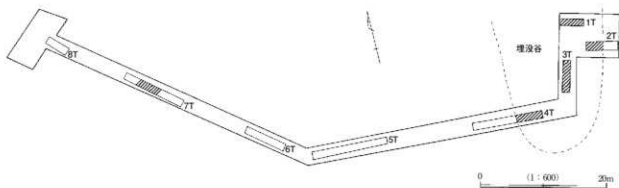
第13図 トレンチ配置図

## 第7章 多々羅田遺跡（第14・15図 図版4・8）

1. 遺跡の位置（第14図） 戸神川の東岸0.75km、標高21～23mの台地上に位置する。現況は荒蕪地である。
2. 調査の方法 調査区域内に1m×4～12mのトレンチを8カ所設定し、表土除去後遺構確認を実施した。
3. 遺構と遺物（第15図 図版4・8） 遺構は検出されなかった。調査区東側の1～4トレンチ周辺は埋没谷となっていることが確認された。遺物は中世以降の須恵器甕である。残存率は胴部～底部1/6で、底径は（15.4cm）、器高（8.5cm）を測る。色調は灰褐色、胎土に長石多量、小石少量を含む。胴部外面から底部ヘラケズリ、内面ロクロ整形、底部内面に自然袖が付着する。他に、奈良・平安時代土師器1点と中世陶磁器1点を表土採取したが小片のため図示しない。



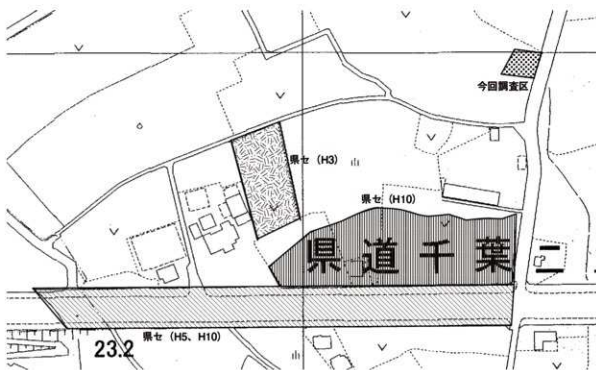
第14図 多々羅田遺跡位置図



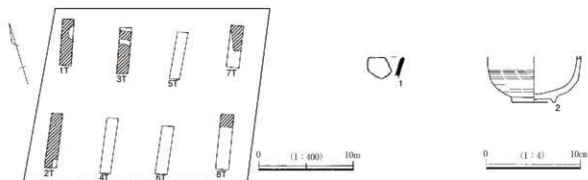
第15図 トレンチ配置図及び出土遺物

## 第8章 白井谷奥遺跡 (第16・17図 図版4・8)

1. 遺跡の位置 (第16図) 戸神川の西岸0.4km、標高24mの台地上に位置する。現況は畑地である。
2. 調査の方法 調査区域内に1m×5mを基準としたトレンチを8カ所設定し、表土除去後遺構確認を実施した。
3. 遺構と遺物 (第17図 図版4・8) 畑の耕作による攪乱が著しく、遺構は検出されなかった。主な出土遺物は縄文土器、奈良・平安時代土師器・須恵器、中近世陶磁器である。1は2トレンチから出土した須恵器の坏の口縁部片で、ロクロ整形、胎土に長石を少量含み、色調はにぶい黄褐色を呈する。2は5トレンチから出土した近世の陶器の碗である。残存率は胴部～底部1/3で底径4.6cm、器高(4.9cm)を測る。ロクロ整形。



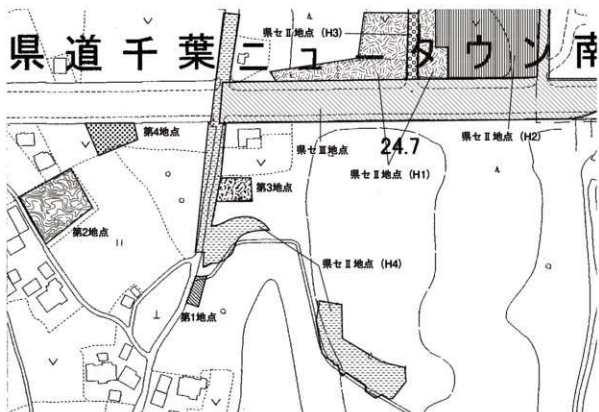
第16図 白井谷奥遺跡位置図



第17図 トレンチ配置図及び出土遺物

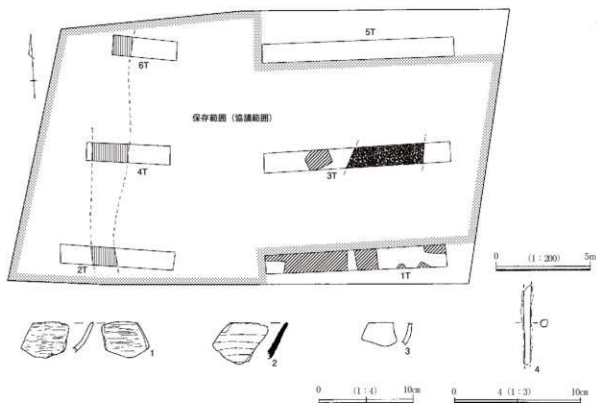
## 第9章 鳴神山遺跡（第3地点）（第18・19図 図版5・8）

1. 遺跡の位置（第18図） 戸神川の西岸0.3km、標高25mの台地上に位置する。現況は山林である。
2. 調査の方法 調査区域内に任意のトレンチを6カ所設定し、表土除去後遺構確認を実施した。
3. 遺構と遺物（第19図 図版5・8） 遺構は3トレンチで奈良・平安時代竪穴住居跡1軒、2・4・6トレンチにまたがって中近世溝状遺構1条を検出した。主な出土遺物は奈良・平安時代土師器・須恵器であり、そのうちの4点を図示した。1は土師器杯の口縁部片である。内外面ミガキ、外面下半ヘラケズリ、胎土に長石・黒色粒子少量を含み、色調はふい橙色を呈する。7世紀初頭のもとのと推定される。2は須恵器杯の口縁部片で奈良時代の新治産のもの。器高（3.8cm）を測り、内外面口クロ整形、胎土に長石多量、雲母少量を含み、色調は灰黄色を呈する。3は陶器の碗か。4は鉄製品で長さ6.3cm、幅0.6cm、厚さ0.6cm、重量5.6gを測る。いずれも3トレンチから出土した。



第18図 鳴神山遺跡（第3・4地点）位置図

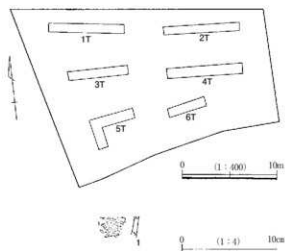




第19図 トレンチ配置図及び出土遺物

## 第10章 鳴神山遺跡（第4地点）（第18・20図 図版5・8）

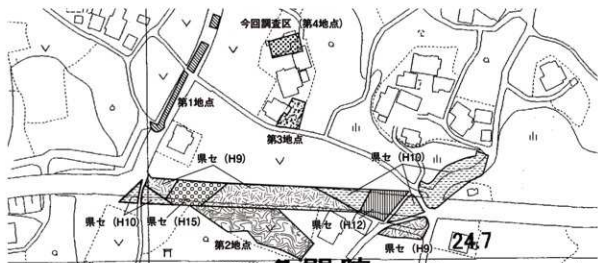
1. 遺跡の位置（第18図） 戸神川の西岸0.4km、標高24mの台地上に位置する。現況は荒蕪地である。
2. 調査の方法 調査区域内に1m×4～8mのトレンチを6カ所設定し、表土除去後遺構確認を実施した。
3. 遺構と遺物（第20図 図版5・8） 遺構は検出されなかった。遺物は土師器、須恵器、土製品の細片が3点出土したのみである。図示した土器は奈良・平安時代の須恵器の甕と思われる。胴部外面に平行タタキがみられ、胎土に長石を少量含み、色調はにぶい黄褐色を呈する。



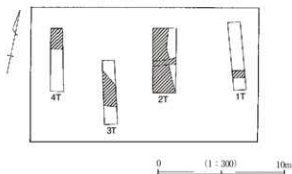
第20図 トレンチ配置図及び出土遺物

## 第11章 前戸遺跡（第4地点）（第21・22図 図版5）

1. 遺跡の位置（第21図） 新川の北岸1.1km、標高24mの台地上に位置する。現況は宅地である。
2. 調査の方法 調査区域内に1～2m×5mのトレンチを4カ所設定し、表土除去後遺構確認を実施した。
3. 遺構と遺物（第22図 図版5） 遺構は検出されなかった。遺物は奈良・平安時代土師器が3点出土したのみである。いずれも小片のため図示しえない。



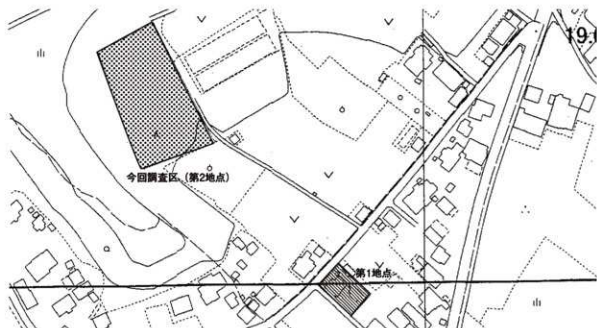
第21図 前戸遺跡 (第5地点) 位置図



第22図 トレンチ配置図

## 第12章 迎山遺跡 (第2地点) (第23～27図 図版6・7・9・10)

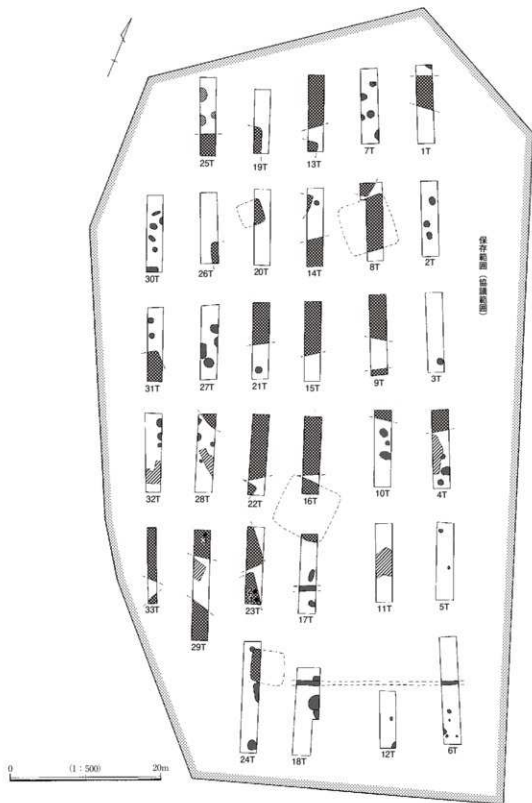
1. 遺跡の位置 (第23図) 亀成川の南岸0.3km、標高18～23mの台地上に位置する。現況は山林・荒蕪地である。



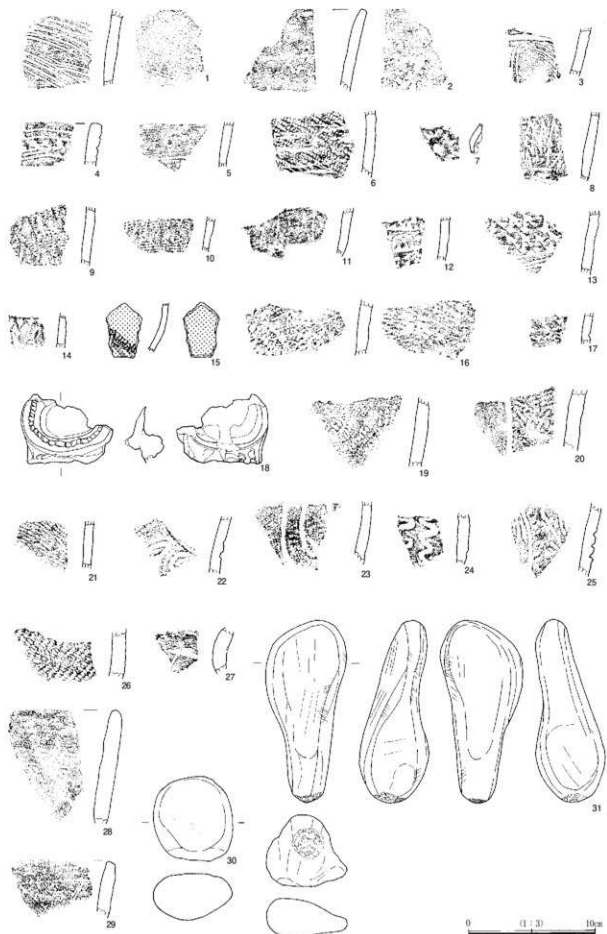
第23図 迎山遺跡 (第2地点) 位置図

2. 調査の方法 調査区域内に2m×10mを基準としたトレンチを33カ所設定し、表土除去後遺構確認を実施した。

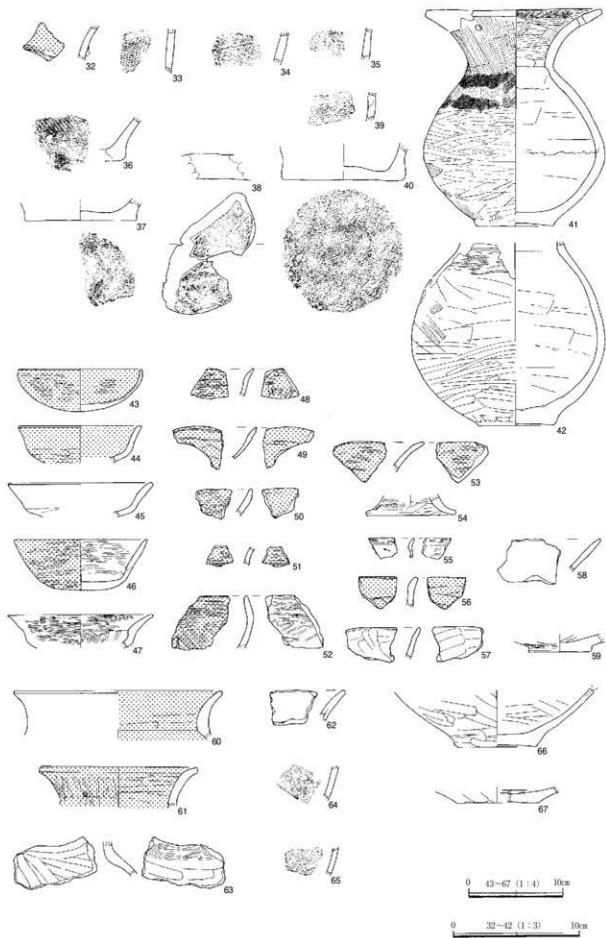
3. 遺構と遺物 (第24～27図 図版6・7・9・10) 遺構は縄文時代土坑3基、古墳時代堅穴住居跡30軒・土坑55基・溝状遺構2条を検出した。住居跡は推定規模3mから7m以上のものまで大小様々に重複して展



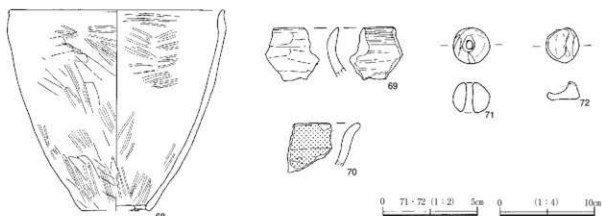
第24図 トレンチ配置図



第25图 出土遺物 (1)



第26図 出土遺物 (2)



第27図 出土遺物（3）

聞しているが、調査区の南東側では確認することができなかった。その南東側のトレンチで検出した溝は6トレンチと18トレンチのものが同一の遺構であると思われる。17トレンチの溝は延長部分を検出することはできなかったものの、幅と方向が類似していることから、同じ規格で平行して造られた可能性もある。遺物は縄文土器、古墳時代土器・須恵器、石製品を中心に多量に出土している。特に縄文土器が多く、早期から晩期に至るまでの土器（田戸下層式、早期条痕文系、諸磯式、浮島式、北白川下層式、花積下層式、阿玉台式、加曾利E式、称名寺式、堀之内式）が調査区北側を中心に出土している。弥生土器は宮ノ台式が出土している。古墳時代土器は5世紀後半のものが多く出土している。41は肩部外面にハケ目と縄目、内面にも縄目が施されており、東海地方の影響がみられる。口縁部には4mmほどの孔が焼成前の段階で穿たれている。欠損のために1カ所しか確認できないが、対に穿孔されていれば吊り手用の穴としての利用も考えられる。42は肩部外面に横位の帯掻きと山形沈線が施されており、古墳早期東海地方のパレススタイルを模したものであると思われる。46は坏というよりも埴の流れをくむ碗の形をしている。体部下端に継ぎ目があり、口口整形ではなく板状の体部を貼り合わせて作られたようである。

第2表 避山遺跡（第2地点）遺物観察表

No	図種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土・色調・焼成	備 考
1	縄文 深鉢	器高 ( 60)	斜交条痕文を施す。	長石多、黒色粒少含。にぶい褐色。焼成良。	19T出土。胴部片、口下層式。
2	縄文 深鉢	器高 ( 65)	無文。	長石多、石英・黒色粒、繊維少含。にぶい褐色。焼成良。	20T出土。口縁部片。早期条痕文系。
3	縄文 深鉢	器高 ( 39)	多岐竹管による横位沈線以下、側面状上具による曲線を配する。	長石多、石英微含。にぶい褐色。焼成良。	5T出土。胴部片。諸磯式。
4	縄文 深鉢	器高 ( 33)	2条の半岐竹管による平行沈線の間に爪型文を施す。	長石・黒色粒多含。にぶい褐色。焼成良。	20T出土。口縁部片。諸磯式。
5	縄文 深鉢	器高 ( 35)	横位沈線文を施す。	長石多含。褐色。焼成良。	20T出土。胴部片。諸磯式。
6	縄文 深鉢	器高 ( 52)	地文に早期及し縄文を施し、浮線文を貼り付ける。	長石多、石英微、繊維多含。にぶい赤褐色。焼成良。	25T出土。胴部片。諸磯式。
7	縄文 深鉢	器高 ( 24)	円形の貼り付け文の中心に押圧を有する。	長石多含。にぶい褐色。焼成良。	26T出土。胴部片。諸磯式。
8	縄文 深鉢	器高 ( 54)	目紋線によるロッキングを施す。	長石少、石英・黒色粒微含。にぶい褐色。焼成良。	9T出土。胴部片。浮島式。
9	縄文 深鉢	器高 ( 47)	目紋線によるロッキングを施す。	長石・黒色粒多含。褐色。焼成良。	8T胴部出土。胴部片。浮島式。
10	縄文 深鉢	器高 ( 27)	目紋線によるロッキングを施す。	長石多、石英・黒色粒微含。にぶい赤褐色。焼成良。	19T出土。胴部片。浮島式。

No	器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土・色調・焼成	備考
11	縄文 深鉢	器高 ( 3.7)	具線数線によるロッキングを施す。	長石多、黒色鉄少量、褐色・焼成貝。	20T出土。胴部片、浮島式。
12	縄文 深鉢	器高 ( 3.0)	三角文を施す。	長石・黒色鉄少、赤色鉄微含。にぶい褐色。焼成貝。	13T出土。胴部片、浮島式。
13	縄文 深鉢	器高 ( 3.0)	具線数線によるロッキング、轆轤状工具による縦位条線を施す。	長石多含。にぶい赤褐色。焼成貝。	8 T出土。胴部片、浮島式。
14	縄文 深鉢	器高 ( 2.6)	具線数線による凸型変形爪型文を施す。	長石少、黒色鉄多含。にぶい褐色。焼成貝。	9 T出土。胴部片、浮島式。
15	縄文 深鉢	器高 ( 3.9)	竹管状工具による爪型文(逆U型刺突)を2条施した後、縦位条線を施す。	長石少、石英多、赤色鉄微含。にぶい褐色。焼成貝。	表採。胴部片。北白川下層3m土内外面赤彩。
16	縄文 深鉢	器高 ( 4.5)	外面に無筋縄文を施す。内面は目線により調整される。	長石多、赤色鉄微含。にぶい褐色。焼成貝。	31T出土。胴部片、北條下層式。
17	縄文 深鉢	器高 ( 2.3)	ヘラ状工具による押引文を施す。	長石多、黒色鉄微含。にぶい褐色。焼成貝。	20T出土。胴部片、前期末～中期初。
18	縄文 深鉢	器高 ( 4.2)	楕状把手、段帯上、段帯外側及び内面貼り付け部外側に爪型文(逆U型刺突)を施す。	長石多、石英微含。にぶい褐色。焼成貝。	9 T出土。把手片の崩り、阿玉古型式。
19	縄文 深鉢	器高 ( 5.0)	単筋縄文を施す。	長石・雲母多含。褐色。焼成貝。	31T出土。胴部片、加賀利E式。
20	縄文 深鉢	器高 ( 4.8)	手轆轤による沈漉区域内に単筋縄文を充用する。	長石少、石英微、黒色鉄多含。灰黄褐色。焼成貝。	31T出土。胴部片、加賀利E式。
21	縄文 深鉢	器高 ( 3.8)	無筋縄文を施す。	長石・赤色鉄・黒色鉄少量含。灰黄褐色。焼成貝。	31T出土。胴部片、加賀利E式。
22	縄文 深鉢	器高 ( 4.5)	地文に無筋縄文を施した後、手轆轤による幾何学状文様を施す。	長石・黒色鉄・緑銅少量含。にぶい褐色。焼成貝。	31T出土。胴部片、称名寺1式。
23	縄文 深鉢	器高 ( 4.9)	単筋縄文を施した後、手轆轤による曲線状文様を施す。	長石・赤色鉄・黒色鉄少量含。にぶい褐色。焼成貝。	4 T出土。胴部片、称名寺1式。
24	縄文 深鉢	器高 ( 4.0)	丸棒状工具による縦位の蛇行沈漉を施す。	長石・黒色鉄少量含。にぶい黄褐色。焼成貝。	31T出土。胴部片、称名寺1式。
25	縄文 深鉢	器高 ( 5.8)	幾何学状沈漉内部に刺突文を有する。	長石・黒色鉄少量含。にぶい赤褐色。焼成貝。	19T出土。胴部片、称名寺2式。
26	縄文 深鉢	器高 ( 3.9)	単筋縄文を施す。	長石・石英少、赤色鉄微含。にぶい褐色。焼成貝。	9 T出土。胴部片、堀之内1式。
27	縄文 深鉢	器高 ( 3.7)	ヘラ状工具による沈漉文を1条施す。	長石・赤色鉄少量含。にぶい褐色。焼成貝。	3 T出土。胴部片、堀之内1式。外面凹みあり。
28	縄文 深鉢	器高 ( 8.9)	轆轤状工具による沈漉を施す。	長石多含。明褐色。焼成貝。	4 T出土。口縁部片、堀之内1式。
29	縄文 深鉢	器高 ( 4.4)	轆轤状工具による沈漉を施す。	長石少、黒色鉄微含。褐色。焼成貝。	4 T出土。口縁部片、堀之内2式。
30	磨石	長さ 7.6 幅 6.2 厚さ 3.7 重量 2139g			8 T出土。
31	磨石	長さ 14.3 最大幅 6.4 最大厚 5.5 重量 4272g			14T出土。
32	養生 壺	器高 ( 2.8)	胴部に突帯が通る (残存部1段)、無文。	長石多、石英少、白色針状物微含。褐色。焼成貝。	14T出土。胴部片、中期後葉。宮ノ台式。外面赤彩。
33	養生 壺	器高 ( 3.0)	単筋縄文1段による柵形帯の帯文が通る (残存部1条)。	長石多、赤色鉄微含。褐色。焼成貝。	8 T出土。胴部片、中期後半。宮ノ台式。
34	養生 壺	器高 ( 2.6)	S字結紮文による帯文が通る (残存部1条4段)。	長石少、石英多、針状物微含。明黄褐色。焼成貝。	14T出土。胴部片、中期後半。宮ノ台式。
35	養生 壺	器高 ( 2.5)	附加条1條 (附加2条) R L - 2 L を充積する。	長石多、石英少量含。にぶい赤褐色。焼成貝。	29T出土。胴部片、後期。
36	養生 壺	器高 ( 3.5)	胴下半部に単筋縄文を充積する。	長石多含。にぶい褐色。焼成貝。	4 T出土。胴部一底部、中期後半。宮ノ台式。内面微熟。
37	養生 壺	口径 ( 8.8) 器高 ( 1.7)	底部木葉面残存。	長石少、赤色鉄微含。にぶい褐色。焼成貝。	31T出土。底部1/4。中期後半。宮ノ台式。
38	養生 壺	器高 ( 2.1)	底部木葉面残存。	石英多、雲母少量含。褐色。焼成貝。	8 T 証張部出土。底面、中期後半。宮ノ台式。
39	養生 壺	器高 ( 2.3)	外面ハケ調整後ナデ。内面ハケ調整。	長石・石英少量含。にぶい赤褐色。焼成貝。	28 T出土。胴部片、中期後葉。宮ノ台式。
40	養生 壺	口径 9.8 器高 ( 2.9)	底部に微筋による調整後ナデ。	長石・石英多、針状物微含。明赤褐色。焼成貝。	表採。底面、中期後半。宮ノ台式。
41	養生 古樽	口径 (13.8) 口径 6.2 器高 17.1 胴部径14.4	口縁部外面ハケ調整後ミダキ。胴部外面ハケ調整後ハケ調整。底に粗ミダキ。口縁部内面ハケ調整後鏡目。胴部内面ハケナデ。輪積痕あり。口縁部に穿孔(焼成前)あり。	長石・石英・赤色鉄多、白色針状物微含。にぶい赤褐色。焼成貝。	23T出土 (No.1)。口縁部2/3欠損。養生末期～古樽初葉。

No	器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土・色調・焼成	備考
42	古墳 壺	底径 6.0 器高 (14.4) 胴部最大径15.3	胴部外面に樽結きと山形文様を施す。胴部外面ヘラケズリ後ヘラケナゲ。ハケ調整。更に軽いミガキ。胴部内面ヘラケナゲ。	長石・石英・赤色粒多。白色針状物散在。赤褐色。焼成良。	23T出土。(No.2)。胴部-底部。古墳早期。底面。器口の調整あり。
43	土師器 杯	口径 13.1 器高 4.4	外面ヘラケズリ重ミガキ。内面ミガキされるが調整がひどく調整不明。	長石・雲母多。石英・赤色粒少含。褐色。焼成良。	1T出土。口縁部-底部1/2。5世紀後半。新出所。内外面赤彩。
44	土師器 杯	口径(13.0) 器高 3.9	作部下階外面横位ヘラケズリ。内面ナゲ。	長石・石英少含。褐色。焼成良。	29T出土。口縁部-底部1/4。5世紀後半。内外面赤彩。
45	土師器 杯	口径(15.4) 器高(3.5)	口縁部下階外面ヘラケズリ。内面ナゲ。内外面とも摩滅がひどく不明。	長石・石英多。赤色粒少含。褐色。焼成良。	2T出土。口縁部1/3。5世紀後半。赤彩不明。
46	土師器 杯(横弁)	口径 14.0 器高 5.4	内外面ミガキ。ロコ口型ではなく、板状の各部を組み合わせた。	長石少。赤色粒・雲母多含。褐色。焼成良。	29T出土。口縁-底部2/3。5世紀後半。外面赤彩。内面赤彩不明。
47	土師器 杯	口径(15.4) 器高(3.6)	内外面ミガキ。底部内面正放射。	長石・雲母多含。明赤褐色。焼成良。	2T出土。口縁部1/3。5世紀前期。褐色硝文土器。
48	土師器 杯(横弁)	器高(3.0)	内外面ミガキ。	長石・石英多含。褐色。焼成良。	31T出土。口縁部。5世紀前期。内外面赤彩。
49	土師器 杯	器高(3.3)	内外面下平ヘラケナゲ。	長石・石英・赤色粒少含。褐色。焼成良。	16T南側出土。口縁部。5世紀前期。内外面赤彩。
50	土師器 杯	器高(2.9)	内外面ミガキ。	長石多。赤色粒散在。にぶい赤褐色。焼成良。	15T出土。口縁部。5世紀後半。内外面赤彩。
51	土師器 杯	器高(2.0)	内外面ミガキ。	長石多含。にぶい褐色。焼成良。	13T出土。口縁部。5世紀後半。内外面赤彩。
52	土師器 杯(横弁)	器高(5.4)	内外面ミガキ。	長石・赤色粒少。石英多含。にぶい褐色。焼成良。	8T北東部出土。口縁部。時期不明。外面赤彩。
53	土師器 高杯	器高(3.1)	内外面ミガキ。	長石・雲母多。白色針状物散在。にぶい褐色。焼成良。	15T出土。口縁部。5世紀後半。内外面赤彩。
54	土師器 高杯	胴径(9.6) 器高(2.2)	外面ヨコナゲ。ハケ調整。内面ヘラケズリ後ハケ調整。	長石・石英多含。赤褐色。焼成良。	21T出土。胴部。短頸高杯。5世紀後半。非赤彩。
55	土師器 小型鉢	器高(2.0)	内外面ミガキ。	長石・乳白色多含。にぶい赤褐色。焼成良。	1T出土。口縁部。赤彩不明。
56	土師器 鉢	器高(3.2)	外面下階及び内面下平ヘラケナゲ。	長石多含。にぶい赤褐色。焼成良。	6T出土。口縁部。5世紀後半。内外面赤彩。
57	土師器 鉢(横弁)	器高(3.2)	内外面ヘラケズリ。	長石多。赤色粒散在。にぶい褐色。焼成良。	13T出土。口縁部。赤彩不明。
58	土師器 前(増弁)	器高(3.4)	ロコ口型。	長石・石英少含。にぶい褐色。焼成良。	6T出土。口縁部。非赤彩。
59	土師器 壺	底径(6.4) 器高(1.8)	外面ミガキ。内面ヘラケナゲ。	長石多含。明赤褐色。焼成良。	8T北東部出土。底部1/4。内外面赤彩。
60	土師器 壺	口径(22.0) 器高(5.1)	口縁部内外面ヨコナゲ。内面ナゲ。	長石・石英・赤色粒多含。外面暗褐色。内面にぶい黄褐色。焼成良。	9T出土。口縁部。内面赤彩。
61	土師器 壺	口径(16.6) 器高(4.2)	口縁部内外面ヨコナゲ後(ハケ調整)更に軽いミガキ。内面ヘラケナゲ。	長石・石英・赤色粒多含。明褐色。焼成良。	1T出土。口縁部1/4。
62	土師器 壺	器高(3.2)	口縁部内外面ヨコナゲ。	長石・石英・赤色粒少含。外面黒褐色。内面にぶい褐色。焼成良。	15T出土。口縁部。黄白口縁。
63	土師器 壺	器高(5.4)	胴部外面ヘラケズリ。内面上平ヘラミガキ。下平ヘラケナゲ。	長石・石英少含。石英多。白色針状物散在。明赤褐色。焼成良。	21T出土。胴部。
64	土師器 壺	器高(3.8)	胴部外面ハケ調整。内面ナゲ。	石英少含。外面黒褐色。内面暗褐色。焼成良。	13T出土。胴部。
65	土師器 壺	器高(3.1)	胴部外面ハケ調整。内面ナゲ。	長石・石英多含。黒褐色。焼成良。	27T出土。胴部。
66	土師器 壺	底径 8.4 器高(6.1)	胴部外面ヘラケズリ。内面ヘラケナゲ。	長石・石英多。針状物散在。にぶい褐色。焼成良。	29T出土。(No.3)。胴部-底部。
67	土師器 壺	底径(8.6) 器高(1.7)	内外面ヘラケナゲ。	長石・石英多含。にぶい赤褐色。焼成良。	8T出土。底部1/4。
68	土師器 瓶	口径(22.8) 底径 7.3 器高 21.2	口縁部外面ヨコナゲ。内面横位方向のミガキ。胴部上平外面ヘラケズリ後ミガキ。上半内面斜位方向のミガキ。下半内面縦位方向のミガキ。下階内面ヘラケズリ。	長石・石英多。赤色粒少含。褐色。焼成良。	8T北東部出土。口縁部-底部1/3。
69	土師器 瓶	器高(6.5)	口縁部先端ヨコナゲ。外面ヘラケズリ。内面ヘラミガキ。	長石・石英・赤色粒多含。暗褐色。焼成良。	21T出土。口縁部。
70	土師器 瓶	器高(4.7)	口縁部内外面ヨコナゲ。外面ヘラケズリ。内面ナゲ。	長石・石英・赤色粒多含。にぶい褐色。焼成良。	16T南側出土。口縁部。外面赤彩。
71	土玉	長さ 1.9 厚さ 1.6 孔径 0.6-0.9 重量 54g		長石少。赤色粒・針状物散在。にぶい褐色。焼成良。	13T出土。定存。
72	土製品 最大長 1.8 幅 1.7 厚さ 0.9 重量 19g			長石多。赤色粒少。針状物散在。褐色。焼成良。	21T出土。



## 第13章 まとめ

本書で取り扱った遺跡の過年度の調査事例及び今回の調査成果についてまとめる。

### 東遺跡（第5地点）

東遺跡は、伊藤郡市文化財センターによって平成5年度に第1地点、平成7・8年度に第2地点（調査時名称「東遺跡第2地点」、「東遺跡第2次」、「東遺跡第2次—2」）、平成7年度に第3地点（調査時名称「東遺跡Ⅱ」）、平成8年度に第4地点（調査時名称「東遺跡Ⅲ」）が調査されている。これまでの調査によって縄文時代中期の竪穴住居跡1軒、古墳時代後期～奈良・平安時代の竪穴住居跡23軒、奈良・平安時代～中世の掘立柱建物跡19棟、中世以降の土坑30基・地下式坑1基・竪穴状遺構3基・台地整形区画2カ所・墓壇9基及びその区画溝3条・底面に複数の「波状凹凸面」を有する道路状遺構1条とそれに付随すると思われる溝状遺構18条が検出されている。調査済み範囲が南北に細長いため遺跡の全容は明らかとなっていないものの、縄文時代から中近世に至るまでの大小様々な遺構が密集した複合遺跡であることが判明している。

今回の調査区は台地整形区画を検出した第2地点北端部の東隣りである。第2地点で検出した3号溝の続きと思われる溝状遺構と古墳時代の竪穴住居跡を検出したことで、台地上での集落跡の広がりを確認することができた。

### 荒野前遺跡（第2地点）

荒野前遺跡は旧石器時代、縄文時代、弥生時代後期の包蔵地として埋蔵文化財分布地図に収録されている。過年度には、伊藤郡市文化財センターによって平成22～23年度に第1地点の調査が行われているほか、千葉県文化財センターによる調査が昭和61年度と平成9・10年度に行われている。第1地点ではATを挟んだ上下の層位から多くの石器資料が出土し、石器製作活動及び火を利用した活動の痕跡もみとめられた。

今回の調査では遺構は検出しなかったが、縄文土器（阿玉台Ⅲ式、加曾利B式）が数点出土しており、周辺の集落跡との関連が想定される。

### 大畑遺跡（第5地点）

第1地点は平成15年度の確認調査で竪穴住居跡3軒を検出したことから南側の一部を同年に、北側の一部を翌16年度に本調査している。その結果、それぞれ縄文時代中期（加曾利E式期）、弥生時代後期～古墳時代前期、奈良・平安時代の住居跡として報告している。その他、掘立柱列2条、土坑2基を検出している。第2地点（平成17年度）は奈良・平安時代と推定される竪穴住居跡2軒と土坑2基を検出した。第3地点（平成27年度）では土坑5基を検出し、うち1基は土坑としては非常に大きいことから台地整形の一部である可能性が高い。第4地点（平成28年度）では遺構は検出されず、縄文時代、弥生時代、平安時代に集落が営まれていたことを示す第3地点までの調査成果と比べて希薄な内容となっている。

今回の調査区は第4地点の隣接地に位置しており、同様の状況を呈している。同一台地上の東側には縄文時代中期から後晩期にかけての大規模な集落であり、弥生時代から奈良・平安時代に至るまでの複合遺跡でもある天神台遺跡も所在し、この一帯が集落を営むのに好立地であったことが想像できる。しかし、本地点以西については調査歴がなく、集落が台地の西側のどのあたりまで広がっていたのかは不明である。

### 中郷遺跡（第4地点）

第1地点（平成22年度）と第2地点（平成23年度）は南北に隣接した調査区で、南側の第1地点で縄文時代前期竪穴住居跡1軒、弥生時代中期竪穴住居跡1軒、古墳時代後期住居跡2軒を、北側の第2地点で古墳時代後期竪穴住居跡3軒・土坑1基を検出している。このことから、縄文時代～古墳時代の集落跡が展開していることが判明した。第3地点（平成26年度）では古墳時代後期の竪穴住居跡1軒を検出した。

今回の調査区は第3地点の隣接する北側にあたる。古墳時代堅穴住居跡3軒、土坑5基、中近世溝状遺構2条を検出し、これまでの地点と同様に古墳時代の集落跡が展開していることが確認できた。遺跡範囲全域に該期の集落跡が広がっているものと思われる。

#### 道作古墳群（第2地点）

道作古墳群としては、平成17年度に印旛郡市文化財センターが調査を行っている。道路工事に伴う埋蔵文化財調査で、調査範囲は全長約650mにも及ぶ。旧石器時代の成果としては、7カ所の石器集中地点と3カ所の礫集中地点が検出された。その他、古墳の周辺にあたる範囲では下総型円筒埴輪の破片や直刀などが出土している。

平成17年度に下層調査した際、今回の調査区に近い地点のトレンチには削平された痕跡がみとめられており、農作業等を行うために整地を行った結果であろうと指摘されている。今回、遺構・遺物ともに検出できなかったのも整地の影響であると思われる。

#### 多々羅田遺跡

過年度に調査事例はない。埋蔵文化財分布地図上では生産跡として収録されているが、今回の調査では遺構及び遺物を確認することができなかった。南西に1.5km程の範囲には白井谷奥遺跡や鳴神山遺跡など、奈良・平安時代を主体とした大規模な集落跡が所在するが、ごく周辺は確認されている遺跡が少なく、遺跡としての内容は不明と言わざるを得ない。

#### 白井谷奥遺跡

印西市教育委員会による調査は今回が初めてとなるが、千葉県文化財センターによる調査が3地点で行われている。それらの発掘調査によって縄文時代陥穴5基、弥生時代堅穴住居跡2軒、奈良・平安時代堅穴住居跡11軒・掘立柱建物跡7棟・方形周溝墓1基・土坑4基・道路状遺構1条、中世地下式坑1基・土坑23基・道路状遺構1条・溝状遺構6条、近世溝状遺構1条が検出され、縄文時代～近世の遺跡であることが判明した。

今回の調査では遺構は検出されなかった。隣接した東側が千葉県文化財センターの鳴神山遺跡第Ⅱ地点として平成4年度に調査されているが、やや離れた場所に堅穴住居跡2軒が確認されたのみで、台地東端の遺構集中地点と比べるとまばらな状況である。これは台地の谷間にあたるためと思われる。

#### 鳴神山遺跡（第3・4地点）

鳴神山遺跡は、千葉ニュータウン建設事業に伴って周辺の遺跡とともに比較的早くから大規模な発掘調査が実施されてきた。遺構は230軒を超える弥生時代～奈良・平安時代の堅穴住居跡、奈良・平安時代の掘立柱建物跡40棟、白井谷奥遺跡から伸びる古代の道路状遺構などを検出し、調査区のほぼ全域で奈良・平安時代を中心とした集落跡が確認されている。遺物は仏教や祭祀に関わる墨書土器や搬入土器の甕が出土しており、特に「弘仁九年九月廿日」の紀年名を記した墨書土器は土器編年研究において重要な資料である。これらの成果は、鳴神山遺跡が倭名類聚抄にみえる印旛郡砥徳郷の中心的集落であった可能性を示している。印西市教育委員会の調査としては過去に第1地点（平成25年度）と第2地点（平成27年度）があり、第1地点で奈良・平安時代の堅穴住居跡1軒を検出している。

今回の第3・4地点は、鳴神山遺跡としては南西部に位置する。北西方向に近接する白井谷奥遺跡では、千葉県文化財センターが平成5・10年度に調査した際、鳴神山遺跡に近接する東側の範囲で中世遺構の集中地点が確認されており、第3地点で検出した中世の溝状遺構もその一部を形成していた可能性がある。

#### 前戸遺跡（第4地点）

前戸遺跡は、千葉県文化財センターによって平成9、10、12、15年度に市道の改良工事に伴う埋蔵文化財調査が行われている。その際の成果として、古墳時代後葉～奈良・平安時代の堅穴住居跡16軒・掘立柱建物跡5棟・溝状遺構15条・土坑12基が検出している。集落跡は東側に隣接する東海道遺跡まで及んでおり、前戸遺跡と同一の集落として捉えられる。印西市教育委員会による発掘調査は3地点にわたって実施している。第1地点は平成16年度に印西市教育委員会が確認調査を行った際に遺構を確認したことから、印旛郡市文化財センターに委託をして本調査を行っている。調査の結果、縄文時代陥穴1基、奈良・平安時代堅穴住居跡1軒・溝状遺構6条、近世土坑11基・溝状遺構1条が検出した。溝状遺構からは瓦塔片と墨書土器が出土しており、集落内での仏教関連活動や祭祀行為を示す遺物として注目される。第2地点（平成18年度）では奈良・平安時代堅穴住居跡3軒・土坑1基・溝状遺構1条・道路状遺構1条、第3地点（平成26年度）では奈良・平安時代堅穴住居跡1軒・土坑1基を検出した。これらの成果から、台地全域に古墳時代末期から奈良・平安時代の集落跡が展開することが判明している。

今回の調査区は奈良・平安時代の土師器・須臾器を僅かに出土するのみで遺構は検出されなかった。しかし、第1地点北端部に住居跡と溝状遺構が検出されていることから、集落はより北側まで続いているものと思われる。

#### 迎山遺跡（第2地点）

迎山遺跡は、平成18年度に調査を行った第1地点では古墳時代前期堅穴住居跡2軒を検出し、古墳時代前期の集落跡であることが確認されている。

第1地点から北西に150m程の距離に位置する今回の調査区では30軒もの古墳時代堅穴住居跡を検出し、大規模な集落跡が台地の縁辺部にまで展開していたことがわかった。また、早期～晩期の縄文土器も多く出土しており、該期の遺構も分布していたことが想定される。

#### 参考文献

- 『印西市歴史読本 原始・古代編』2011年 印西市教育委員会
- 『曾谷窪遺跡発掘調査報告書』1995年 公益財団法人印旛郡市文化財センター
- 『東遺跡（第2地点）・馬込遺跡Ⅱ』1999年 公益財団法人印旛郡市文化財センター
- 『天神台遺跡』2000年 公益財団法人印旛郡市文化財センター
- 『曾谷ノ窪瓦窯跡（第2地点）』2002年 公益財団法人印旛郡市文化財センター
- 『前戸遺跡』2005年 公益財団法人印旛郡市文化財センター
- 『道作古墳群』2007年 公益財団法人印旛郡市文化財センター
- 『荒野前遺跡』2012年 公益財団法人印旛郡市文化財センター
- 『印西市新井堀Ⅱ遺跡・前戸遺跡』2004年 公益財団法人千葉県教育振興財団
- 『印西市鳴神山遺跡Ⅳ』2005年 公益財団法人千葉県教育振興財団
- 『印西市曾谷窪遺跡』2011年 公益財団法人千葉県教育振興財団
- 『印西市東海道遺跡』2016年 公益財団法人千葉県教育振興財団
- 『千葉県地区新市街地造成整備事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』1999年 公益財団法人千葉県教育振興財団
- 『千葉県地区新市街地造成整備事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』1999年 公益財団法人千葉県教育振興財団
- 『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』1999年 公益財団法人千葉県教育振興財団
- 『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書Ⅳ』2000年 公益財団法人千葉県教育振興財団
- 『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書ⅤⅠ』2004年 公益財団法人千葉県教育振興財団
- 『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書ⅤⅡ』2005年 公益財団法人千葉県教育振興財団
- 『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書ⅤⅢ』2012年 公益財団法人千葉県教育振興財団
- 『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書ⅤⅣ』2012年 公益財団法人千葉県教育振興財団
- 『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書ⅤⅤⅠ』2013年 公益財団法人千葉県教育振興財団
- 『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書ⅤⅤⅡ』2013年 公益財団法人千葉県教育振興財団
- 郷原英司「鳴神山遺跡（千葉ニュータウン内遺跡）」『千葉県の歴史 資料編考古3（奈良・平安時代）』1998年 千葉県田村隆「荒野前遺跡」『千葉県の歴史 資料編考古1（旧石器・縄文時代）』2000年 千葉県



# 写真図版

- 図版1 東道跡(第5地点)調査前風景、1トレンチ(西から)、2トレンチ(西から)、3トレンチ(西から)、4トレンチ(西から)、5トレンチ(西から)、6トレンチ(西から)、7トレンチ(西から)、8トレンチ(西から)、埋め戻し状況、荒野前道跡(第2地点)調査前風景、1トレンチ(東から)、2トレンチ(東から)、3トレンチ(東から)、4トレンチ(東から)、5トレンチ(西から)、6トレンチ(東から)、大畑道跡(第5地点)調査前風景
- 図版2 1トレンチ(東から)、2トレンチ(東から)、3トレンチ(東から)、4トレンチ(東から)、5トレンチ(東から)、6トレンチ(東から)、7トレンチ(南から)、8トレンチ(南から)、9トレンチ(南から)、中郷道跡(第4地点)調査前風景、1トレンチ(南から)、3トレンチ(南から)、4トレンチ(南から)、5トレンチ(南から)、6トレンチ(南から)、7トレンチ(南から)、8トレンチ(南から)、9トレンチ(南から)
- 図版3 10トレンチ(南から)、11トレンチ(南から)、12トレンチ(南から)、13トレンチ(南から)、14トレンチ(南から)、15トレンチ(南から)、16トレンチ(北から)、17トレンチ(南から)、18トレンチ(南から)、19トレンチ(南から)、20トレンチ(北から)、道作古墳群(第2地点)調査前風景、1トレンチ(南から)、2トレンチ(南から)、3トレンチ(南から)、4トレンチ(南から)、5トレンチ(南から)、6トレンチ(南から)
- 図版4 多々羅田道跡調査前風景、1トレンチ(東から)、2トレンチ(東から)、3トレンチ(北から)、4トレンチ(西から)、5トレンチ(西から)、6トレンチ(東から)、7トレンチ(東から)、8トレンチ(東から)、白井谷奥道跡調査前風景、1トレンチ(南西から)、2トレンチ(南西から)、3トレンチ(南西から)、4トレンチ(南東から)、5トレンチ(南東から)、6トレンチ(南東から)、7トレンチ(南東から)、8トレンチ(南東から)
- 図版5 鳴神山道跡(第3地点)調査前風景、1トレンチ(東から)、2トレンチ(東から)、3トレンチ(東から)、4トレンチ(東から)、5トレンチ(東から)、6トレンチ(東から)、鳴神山道跡(第4地点)調査前風景、1トレンチ(東から)、2トレンチ(西から)、3トレンチ(東から)、4トレンチ(西から)、5トレンチ(北西から)、6トレンチ(西から)、前戸道跡(第4地点)調査前風景、1トレンチ(北から)、2トレンチ(南から)、3トレンチ(南から)
- 図版6 4トレンチ(南から)、迎山道跡(第2地点)調査前風景、作業風景、1トレンチ(南東から)、2トレンチ(南東から)、3トレンチ(南東から)、4トレンチ(南東から)、5トレンチ(南東から)、6トレンチ(南東から)、7トレンチ(南東から)、8トレンチ(南東から)、9トレンチ(南東から)、10トレンチ(南東から)、11トレンチ(南東から)、12トレンチ(南東から)、13トレンチ(南東から)、14トレンチ(南東から)、15トレンチ(南東から)
- 図版7 16トレンチ(南東から)、17トレンチ(南東から)、18トレンチ(南東から)、19トレンチ(南東から)、20トレンチ(南東から)、21トレンチ(南東から)、22トレンチ(南東から)、23トレンチ(南東から)、24トレンチ(南東から)、25トレンチ(南東から)、26トレンチ(南東から)、27トレンチ(南東から)、28トレンチ(南東から)、29トレンチ(南東から)、30トレンチ(南東から)31トレンチ(南東から)、32トレンチ(南東から)、33トレンチ(南東から)
- 図版8 東道跡(第5地点)出土遺物、荒野前道跡(第2地点)出土遺物、大畑道跡(第5地点)出土遺物、中郷道跡(第4地点)出土遺物、多々羅田道跡出土遺物、白井谷奥道跡出土遺物、鳴神山道跡(第3地点)出土遺物、鳴神山道跡(第4地点)出土遺物
- 図版9 迎山道跡(第2地点)出土遺物(1)
- 図版10 迎山道跡(第2地点)出土遺物(2)





東遺跡(第5地点)調査前風景



東遺跡(第5地点)1トレンチ(西から)



東遺跡(第5地点)2トレンチ(西から)



東遺跡(第5地点)3トレンチ(西から)



東遺跡(第5地点)4トレンチ(西から)



東遺跡(第5地点)5トレンチ(西から)



東遺跡(第5地点)6トレンチ(西から)



東遺跡(第5地点)7トレンチ(西から)



東遺跡(第5地点)8トレンチ(西から)



東遺跡(第5地点)埋め戻し状況



荒野前遺跡(第2地点)調査前風景



荒野前遺跡(第2地点)1トレンチ(東から)



荒野前遺跡(第2地点)2トレンチ(東から)



荒野前遺跡(第2地点)3トレンチ(東から)



荒野前遺跡(第2地点)4トレンチ(東から)



荒野前遺跡(第2地点)5トレンチ(西から)



荒野前遺跡(第2地点)6トレンチ(東から)



大畑遺跡(第5地点)調査前風景



大畑遺跡(第5地点) 1トレンチ(東から)



大畑遺跡(第5地点) 2トレンチ(東から)



大畑遺跡(第5地点) 3トレンチ(東から)



大畑遺跡(第5地点) 4トレンチ(東から)



大畑遺跡(第5地点) 5トレンチ(東から)



大畑遺跡(第5地点) 6トレンチ(東から)



大畑遺跡(第5地点) 7トレンチ(南から)



大畑遺跡(第5地点) 8トレンチ(南から)



大畑遺跡(第5地点) 9トレンチ(南から)



中郷遺跡(第4地点) 調査前風景



中郷遺跡(第4地点) 1トレンチ(南から)



中郷遺跡(第4地点) 3トレンチ(南から)



中郷遺跡(第4地点) 4トレンチ(南から)



中郷遺跡(第4地点) 5トレンチ(南から)



中郷遺跡(第4地点) 6トレンチ(南から)



中郷遺跡(第4地点) 7トレンチ(南から)



中郷遺跡(第4地点) 8トレンチ(南から)



中郷遺跡(第4地点) 9トレンチ(南から)





中郷遺跡(第4地点) 10トレンチ(南から)



中郷遺跡(第4地点) 11トレンチ(南から)



中郷遺跡(第4地点) 12トレンチ(南から)



中郷遺跡(第4地点) 13トレンチ(南から)



中郷遺跡(第4地点) 14トレンチ(南から)



中郷遺跡(第4地点) 15トレンチ(南から)



中郷遺跡(第4地点) 16トレンチ(北から)



中郷遺跡(第4地点) 17トレンチ(南から)



中郷遺跡(第4地点) 18トレンチ(南から)



中郷遺跡(第4地点) 19トレンチ(南から)



中郷遺跡(第4地点) 20トレンチ(北から)



道作古墳群(第2地点) 調査前風景



道作古墳群(第2地点) 1トレンチ(南から)



道作古墳群(第2地点) 2トレンチ(南から)



道作古墳群(第2地点) 3トレンチ(南から)



道作古墳群(第2地点) 4トレンチ(南から)



道作古墳群(第2地点) 5トレンチ(南から)



道作古墳群(第2地点) 6トレンチ(南から)



多々羅田遺跡調査前風景



多々羅田遺跡1トレンチ(東から)



多々羅田遺跡2トレンチ(東から)



多々羅田遺跡3トレンチ(北から)



多々羅田遺跡4トレンチ(西から)



多々羅田遺跡5トレンチ(西から)



多々羅田遺跡6トレンチ(東から)



多々羅田遺跡7トレンチ(東から)



多々羅田遺跡8トレンチ(東から)



白井谷奥遺跡調査前風景



白井谷奥遺跡1トレンチ(南西から)



白井谷奥遺跡2トレンチ(南西から)



白井谷奥遺跡3トレンチ(南西から)



白井谷奥遺跡4トレンチ(南東から)



白井谷奥遺跡5トレンチ(南東から)



白井谷奥遺跡6トレンチ(南東から)



白井谷奥遺跡7トレンチ(南東から)



白井谷奥遺跡8トレンチ(南東から)



鳴神山道跡(第3地点) 調査前風景



鳴神山道跡(第3地点) 1トレンチ(東から)



鳴神山道跡(第3地点) 2トレンチ(東から)



鳴神山道跡(第3地点) 3トレンチ(東から)



鳴神山道跡(第3地点) 4トレンチ(東から)



鳴神山道跡(第3地点) 5トレンチ(東から)



鳴神山道跡(第3地点) 6トレンチ(東から)



鳴神山道跡(第4地点) 調査前風景



鳴神山道跡(第4地点) 1トレンチ(東から)



鳴神山道跡(第4地点) 2トレンチ(西から)



鳴神山道跡(第4地点) 3トレンチ(東から)



鳴神山道跡(第4地点) 4トレンチ(西から)



鳴神山道跡(第4地点) 5トレンチ(北西から)



鳴神山道跡(第4地点) 6トレンチ(西から)



前戸道跡(第4地点) 調査前風景



前戸道跡(第4地点) 1トレンチ(北から)



前戸道跡(第4地点) 2トレンチ(南から)



前戸道跡(第4地点) 3トレンチ(南から)



前戸遺跡(第4地点) 4トレンチ(南から)



迎山遺跡(第2地点) 調査前風景



迎山遺跡(第2地点) 作業風景



迎山遺跡(第2地点) 1トレンチ(南東から)



迎山遺跡(第2地点) 2トレンチ(南東から)



迎山遺跡(第2地点) 3トレンチ(南東から)



迎山遺跡(第2地点) 4トレンチ(南東から)



迎山遺跡(第2地点) 5トレンチ(南東から)



迎山遺跡(第2地点) 6トレンチ(南東から)



迎山遺跡(第2地点) 7トレンチ(南東から)



迎山遺跡(第2地点) 8トレンチ(南東から)



迎山遺跡(第2地点) 9トレンチ(南東から)



迎山遺跡(第2地点) 10トレンチ(南東から)



迎山遺跡(第2地点) 11トレンチ(南東から)



迎山遺跡(第2地点) 12トレンチ(南東から)



迎山遺跡(第2地点) 13トレンチ(南東から)



迎山遺跡(第2地点) 14トレンチ(南東から)



迎山遺跡(第2地点) 15トレンチ(南東から)



迎山遺跡(第2地点) 16トレンチ(南東から)



迎山遺跡(第2地点) 17トレンチ(南東から)



迎山遺跡(第2地点) 18トレンチ(南東から)



迎山遺跡(第2地点) 19トレンチ(南東から)



迎山遺跡(第2地点) 20トレンチ(南東から)



迎山遺跡(第2地点) 21トレンチ(南東から)



迎山遺跡(第2地点) 22トレンチ(南東から)



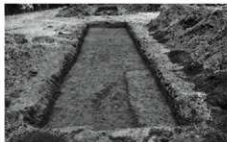
迎山遺跡(第2地点) 23トレンチ(南東から)



迎山遺跡(第2地点) 24トレンチ(南東から)



迎山遺跡(第2地点) 25トレンチ(南東から)



迎山遺跡(第2地点) 26トレンチ(南東から)



迎山遺跡(第2地点) 27トレンチ(南東から)



迎山遺跡(第2地点) 28トレンチ(南東から)



迎山遺跡(第2地点) 29トレンチ(南東から)



迎山遺跡(第2地点) 30トレンチ(南東から)



迎山遺跡(第2地点) 31トレンチ(南東から)



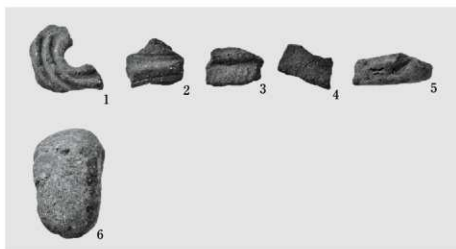
迎山遺跡(第2地点) 32トレンチ(南東から)



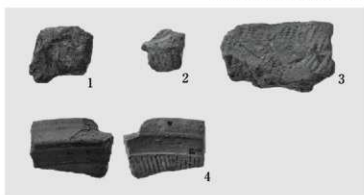
迎山遺跡(第2地点) 33トレンチ(南東から)



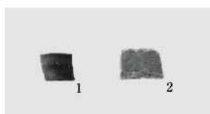
東遺跡(第5地点)出土遺物



荒野前遺跡(第2地点)出土遺物



大畑遺跡(第5地点)出土遺物



中郷遺跡(第4地点)出土遺物



多々羅田遺跡出土遺物



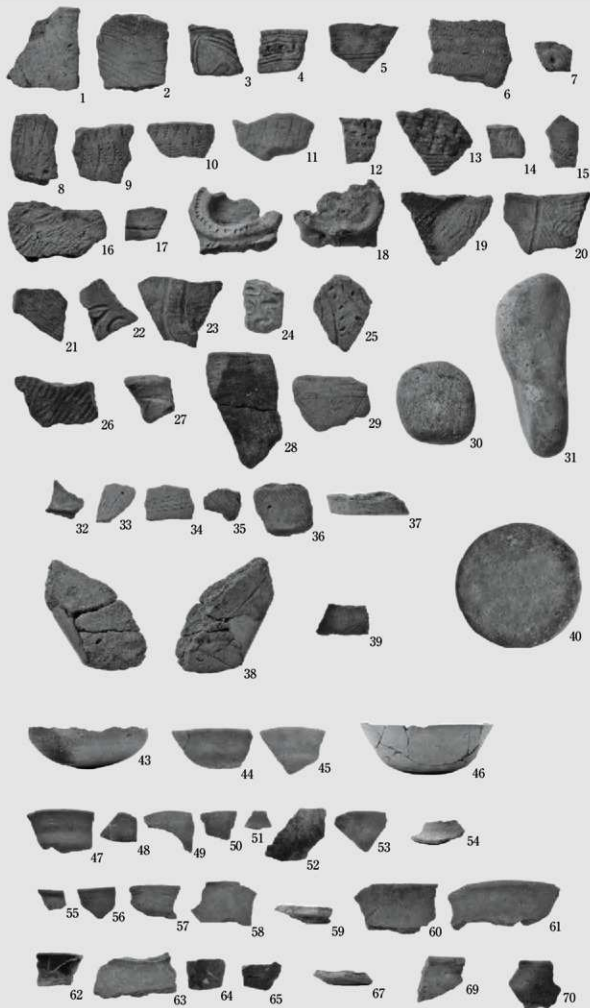
白井谷奥遺跡出土遺物



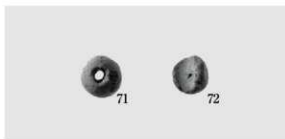
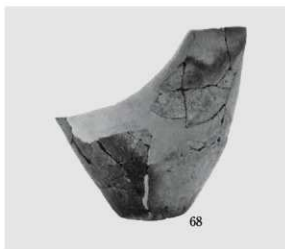
鳴神山遺跡(第3地点)出土遺物



鳴神山遺跡(第4地点)出土遺物



迎山遺跡(第2地点)出土遺物(1)



迎山道跡(第2地点)出土遺物(2)



# 報告書抄録

ふりがな	へいせいじゅうきゅうねんどいんざいしなひせきはくつちょうさほうこくしょ						
書名	平成29年度印西市発掘発掘調査報告書						
編者	石川愛史						
編集機関	公益財団法人 印西市文化財センター						
編集機関所在地	〒285-0814 千葉県佐倉市赤羽1丁目番地4 TEL.043-484-0126						
発行年月日	2019年3月15日						
ふりがな	コード	ふりがな		北緯	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	市町村	遺跡	所在地	東経			
ひがしいせき(だいごちてん) 東遺跡(第5地点)	122331	09-120	いんざいしひらおかみぎろひがしいせきばん4、1152ばん5 印西市平岡字東1152番4、1152番5	35°30'01" 140°10'20"	2017年 4月18日	確認調査 78㎡ /752㎡	社会福祉施設 の建設
こうやまゝいせき(だいごちてん) 瓦野前遺跡(第2地点)	122331	09-121	いんざいしかまがりあざこうやまゝ2003ばん4 印西市藤岡字瓦野前2003番4	35°47'12" 140°11'39"	2017年 5月9日	確認調査 103㎡ /372㎡	個人住宅の 建設
おおはたいせき(だいごちてん) 大畑遺跡(第5地点)	122331	09-122	いんざいしおおはらあざもりうち1970ばん1 印西市大森字南内1970番1	35°49'53" 140°08'22"	2017年 7月6日	確認調査 39㎡ /319㎡	個人住宅の 建設
なかごういせき(だいごちてん) 中郷遺跡(第4地点)	122331	09-123	いんざいしまつざきあざなかごう492、496、497、506ばん2のい ちふ 印西市松崎字中郷492、496、497、506番2の一部	35°46'37" 140°08'08"	2017年 8月24日	確認調査 166㎡ /21225㎡	認可外保育 所の建設
どうきくこふんてん(だいごちてん) 道古墳群(第2地点)	122331	09-124	いんざいしひらおかみぎろひがしいせきばん4のふかいちふ 印西市平岡字東山1976番1、小林字六ヶ村2892番4の各一部	35°49'37" 140°10'31"	2017年 11月9日	確認調査 30㎡ /264.12㎡	農業用倉庫 の建設
たたらだゝいせき 多々羅田遺跡	122331	09-125	いんざいしふなおあざわらち1671ばん1のいちふ 印西市船尾字田1671番1の一部	35°47'43" 140°07'41"	2017年 12月6日	確認調査 56.5㎡ /350.71㎡	個人住宅の 建設
しらいたにおくいせき 白井谷遺跡	122331	09-126	いんざいしとかみあざみやのこし1070ばん1 印西市戸神字宮ノ越1070番1	35°47'32" 140°07'01"	2017年 12月13日	確認調査 42.5㎡ /341㎡	個人住宅の 建設
なるかみやまいせき(だいごちてん) 鳴神山遺跡(第3地点)	122331	09-127	いんざいしとかみあざみやのこし629ばん2、631ばん14 印西市戸神字大629番2、631番14	35°47'25" 140°07'01"	2018年 1月15日	確認調査 43.5㎡ /330㎡	個人住宅の 建設
なるかみやまいせき(だいごちてん) 鳴神山遺跡(第4地点)	122331	09-128	いんざいしとかみあざみやのこし1045ばん3 印西市戸神字北ノ内1045番3	35°47'26" 140°06'58"	2018年 1月31日	確認調査 41㎡ /375㎡	個人住宅の 建設
まゝといせき(だいごちてん) 前戸遺跡(第4地点)	122331	09-129	いんざいしまつざきあざまゝと866ばん2、869ばん、878ばん、 879ばん1、879ばん2 印西市松崎字前戸866番2、869番、878番、879番1、879番2	35°46'48" 140°08'18"	2018年 2月18日	確認調査 25㎡ /180㎡	個人住宅の 建設
ひかいやまいせき(だいごちてん) 葦山遺跡(第2地点)	122331	09-130	いんざいしおおはらあざひかいやま 印西市大森字葦山	35°49'30" 140°08'08"	2018年 2月13日～ 2月28日	確認調査 648㎡ /5065.02㎡	太陽光発電 施設の敷設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺物	主な遺物	特記事項		
ひがしいせき(第5地点)	仮説 集落跡	旧石器、縄文、古墳、奈良・平安 時代、中世	古墳時代型穴住居跡3軒、奈良・平安 時代土坑3基、中世新土坑7基、溝状 遺構1基	縄文時代土器・磨石、古墳時代土器、奈良・ 平安時代土器、須恵器・磁石、中世陶磁器、 瓦葺カワラ	なし		
こうやまゝいせき(第2地点)	仮説 集落跡	旧石器、縄文、弥生時代	なし	縄文土器	なし		
おおはたいせき(第5地点)	仮説 集落跡	縄文、奈良、古墳、平安時代、中 世	なし	縄文土器、奈良・平安時代土器、中世陶磁器、 瓦葺カワラ	なし		
なかごういせき(第4地点)	仮説 集落跡	古墳時代、中世	古墳時代型穴住居跡3軒・土坑6基、 中世溝状遺構2基	古墳時代土器、奈良・平安時代土器、須恵 器・磁石、中世土器、中世陶磁器	なし		
どうきくこふんてん(第2地点)	仮説 集落跡	旧石器・奈良・平安時代 古墳	なし	なし	なし		
たたらだゝいせき 多々羅田遺跡	仮説 集落跡	奈良・平安時代、中世	なし	奈良・平安時代土器、中世須恵器、中世陶 磁器	なし		
しらいたにおくいせき 白井谷遺跡	仮説 集落跡	奈良・平安時代、中世	なし	縄文土器、奈良・平安時代土器、須恵器、中 世陶磁器	なし		
なるかみやまいせき(第3地点)	仮説 集落跡	旧石器、奈良・平安時代	奈良・平安時代型穴住居跡1軒、中世 溝状遺構1基	奈良・平安時代土器、須恵器、瓦葺カ ワラ	なし		
なるかみやまいせき(第4地点)	仮説 集落跡	旧石器、奈良・平安時代	なし	奈良・平安時代土器、須恵器、土製品	なし		
まゝといせき(第4地点)	仮説 集落跡	縄文、奈良・平安時代	なし	奈良・平安時代土器	なし		
ひかいやまいせき(第2地点)	仮説 集落跡	縄文、古墳時代	縄文時代土坑3基、古墳時代型穴住 居跡3軒・土坑5基、溝状遺構2基	縄文土器、古墳時代土器、須恵器・土製品、 石製品	なし		

平成29年度

印西市内遺跡発掘調査報告書

平成31年3月12日 印刷

平成31年3月15日 発行

編 集 公益財団法人印旛郡市文化財センター  
千葉県佐倉市春路1丁目1番地4  
発 行 印西市教育委員会  
千葉県印西市大森2364-2  
印 刷 株式会社 エリート情報社 [印刷出版局]  
千葉県成田市東和田415-10